



## 「第40回定期大会」の発言等に 8月27日提出 踏まえた申し入れを提出！

地本は「第40回定期大会」を開催し、職場現実の声に踏まえて向こう一年間の運動方針を満場一致で確認しました。大会では、「JR東日本グループのさらなる飛躍に向けた新たな組織と働き方について」により、「新たに職場が事業本部となり、自分達の業務がどのように変化するのか」「今も休日勤務が発生している状態で、休日数が増えて要員を確保できるのか」「定期昇給が能力昇給となり、管理者は公正・公平に評価できるのか」「融合と連携により、今まで以上に労働密度が高くなり、安全が担保できるのか」など多くの不安の声が出されています。この間、「ライフサイクルの深度化」「人事賃金制度の見直し」「新たなジョブローテーション」など、労使で築き上げてきた議論経過を大きく変更するものであり、過度な競争や格差による社員間の分断、様々な業務を担うことで安全が蔑ろになるのではと危惧しています。

7月1日に発表された、新たなグループ経営ビジョン「勇翔2034」においても、安全は経営のトッププライオリティであり、鉄道を中心としたモビリティと生活ソリューションの二軸それぞれの成長と、様々なシナジーの創出を通じて「安心」と「感動」を実現していくとしています。しかし職場では、実設訓練中に管理者の隠蔽とも捉えられかねない事象や幕張車両センター構内で発生した、外板清掃時の熱中症による労災死亡事故などに現れているように、問題が山積しています。

今年は「JR福知山線脱線事故」から20年の節目の年です。事故の背景でもある、懲罰的日勤教育を始めとした責任追及の姿勢では、安全・安心な鉄道は築き上げられないことは明白です。発生している事故・事象に対して、原因究明を行い再発防止の観点から、対策を全社員で実践することなしに、組合員・社員が安全で安心して働ける環境を築き上げることはできません。

地本は「新生JR東労組運動宣言」のもと、組合員一人ひとりが施策や業務に向き合い、「安全・健康・ゆとり」ある職場の実現をめざし運動を進めています。組合員・家族の幸福と会社の持続的発展を実現するために、今後団体交渉を行います！

### 《申し入れ項目》

1. 成田統括センター佐倉乗務ユニットで発生した、実設訓練中に指令の指示を受けず独断で運転を再開した事象について、背後要因と対策を明らかにすること。また、今事象の詳細について各乗務員職場での指導内容を明らかにすること。なお、各乗務ユニットへ事象の共有を徹底すること。
2. 要員不足に対する千葉支社の考えと対策を具体的に明らかにすること。
3. 慢性的な要員不足により、多くの職場で休日出勤が発生していることから、出面数に加えて公休・特休・年休・研修・出張・変形等の休日および勤務が滞りなく運用できる体制を確保すること。
4. 幕張車両センター構内で発生した労災死亡事故について、詳細を明らかにするとともに、具体的対策を講じるまでリスク管理の観点から外板清掃を外部に再委託しないこと。なお、労働安全衛生法改正により、全ての組合員・社員が安心して働くことができるよう、グループ会社を含めた熱中症対策を講じること。
5. 房総特急列車の全停車駅において、お客さまサービス向上の観点から指定席券売機を設置すること。なお、繁忙期において特に混雑が予想される列車においては臨時改札行路をつけること。

「安全・健康・ゆとり」ある職場を実現するために今後団体交渉を行います！